

『県都デザインフォーラム』意見交換

日時：平成24年11月26日（月）13:00～15:00

場所：ホテルフジタ福井 天山の間

◆パネリストからのご意見

○（社）福井青年会議所 専務理事 後藤 正邦 氏

J Cではこれまで中心市街地の活性化や足羽川の利活用などのまちづくり事業、子どもへの郷土の愛着を育む人づくりの事業をしてきたが、この2つがリンクしないとしっかりしたまちづくり、人づくりは出来ないと実感している。J Cでは50周年を迎えるにあたり、“育都ふくい”をキーワードに、福井人の育成を進めていく。福井の歴史や偉人、伝統、産業などに関して、子どもも大人もよく知らない人が多い。ここに取り組んでいく必要がある。



どうしたら若い世代の人たちが福井に住み続けるか。高校卒業後に県外に出た人に、どうやって帰ってもらうか。福井は本当に子育てがしやすい。また、福井には仕事がないと誤解されているが、実はすごい産業、会社、技術がある。こうした情報を若い人たちに伝える、子どもの時から教えていくことで、福井の良さを実感し、福井に住もうという人が増えていくだろう。

高校生や大学生を対象に、福井の歴史を学び、将来の福井を議論する機会を設けたが、感度や意欲の高い学生が集まった。そういう市民を早い段階からどう育成していくか。こうした人材育成の課題は、まちづくりにも通じるものであり、学校教育とも共有し、将来の福井を担う人を育てていく必要がある。

○福井県旅館ホテル生活衛生同業組合 副理事長 清水 嗣能 氏

日本全国で観光に着目したまちづくりを進めている。人口が減少傾向にあるので、交流人口を増やしていくために、魅力のあるまちにして、多くの観光客に来てもらうということ。日本一のものなどがあって選ばれる訳であり、福井にも選ばれる魅力を創ることができるか。例えば桜並木はどこにでもあるが、すごいから見に来る。このすごさを創り、発展させていけるかが福井の課題である。

神戸の港街、京都の紅葉など、人はイメージを買う。福井に行ったらこうしたいというイメージを、福井のまちの中でも形づくっていく必要がある。それも全国からわざわざ行ってみたくなるレベルのものがいる。例えば足羽川の桜並木なら、“お市桜”という名前に変えてしまう。お市は美人だったので、“お市桜”を通ると美人になるというストーリーを創っていくような取組みを進めたらどうか。



浜町のまちづくりは、マンション建設をきっかけに始まった。一つのきっかけができれば、思いのある人が集まってくる。昔、福井はビジネスホテルのようなまちと言われてショックだった。これからは歴史という縦軸と地域性という横軸をかけあわせた素敵なまちにして欲しい。

○福井アーバンデザイン研究会 会長 高木 紀栄 氏

若者が集まり、福井の中心市街地について、どうだったら住みたいか、行きたくなるかを考え、提言書にまとめたことを契機に、福井の宝物に光を当てるライトアップイベントの企画・運営をはじめ、まちづくりに関する様々な活動に取り組んできた。

イベントなどを行おうとする時に、使いやすい場所が福井にはない。天気が悪い時にも影響なく使える場所、料金も適当で、手続きも簡単な場所。そういう場所が中心市街地にあると、もっと中心市街地の魅力が高まる。例えば、足羽河原には電源も水道もないが、それが整備されていると、もっといろいろなことに使われると思う。ハード、ソフトの両面から、使う側の立場で使いやすさを考えて欲しい。

県都の顔は、福井県の顔。恐竜やメガネ、伝統産業など世界に誇れる資源がたくさんあるので、福井市以外の資源も積極的に活用する視点が必要だと感じている。

○ふくい片町青年会 会長 西尾 佳敬 氏

3つの商店街が運営する情報発信拠点として整備された“どまん館”を拠点に、まち歩きやセミナーなどを実施している。“どまん館”があることで、商店街や地元の人と一体となって活動ができており、活動を続けるのに大きなプラスになっている。

青年会は30歳くらいの若者が集まっているが、若い人のやる気を集めることで、年配の方も協力をしてくれる。最初は少ないかもしれないが、そういう若いパワーを集めてとりあえず始めることが大事。

○アーキズム建築設計事務所 取締役 羽場 千尋 氏

建築は単体ではなく、回遊性を考えないといけない。金沢21世紀美術館は、企画段階から市民と議論してきたことで開館後の成功につながった。周りがある環境を変えてしまう“建築の力”を感じる。“建築の力”とは周囲の環境までも変える力があり、交流を生み出し、街をも変えていく力があると思う。福井にも養浩館など、スポット的に良いものはあるが、人の回遊を生むまでにはなっていない。

今後、再開発事業やビルの建替えが始まるが、景観条例や建築協定を取り決めておかないと、バラバラな景観が形成されてしまう。また、県民会館跡地の活用では、単に復元ではなく、ルーブル美術館のように、歴史的建築遺産を残して活用しながら、新たな機能を加えていく取組みを期待する。

まちづくりは住民の力がないと進まない。住民参加のために、まちづくりの核になる公共建築物の設計案や設計者を選ぶ時には、公開で行うことを提案する。住民参加によって完成した建築に住民は愛着を持って末永く大事に次の世代に引継いでいくだろう。

○金沢大学大学院人間社会環境研究科 在学 村上 智子 氏

県外の大学で地域政策を学んでいた時に、福井の知名度の低さを実感した。福井をPRするために勉強をしようと思い、フォーラムなどに積極的に参加するようになった。

高齢の方が多い地域のリーダーには、若者にも地域活動に参加して欲しいという思いがある。一方、同世代の若者からは、まちづくりに参加したいが、継続して主体的に参加することがしづらいという意見をよく聞く。その壁を低くする工夫ができれば、まちづくり活動への若者の参加が進められるだろう。



◆フォーラムで紹介された来場者からのご意見

- ・福井に来た時に歴史を感じられるまちづくりをお願いする
- ・御廊下橋を復元したのだから、まずは山里口御門から復元すると良い
- ・県庁、市役所を移動させてしまうと空洞化してしまわないか
- ・昔の町名を使ったり、歴史のある場所が分かるように整備したら良い
- ・公共交通機関の整備は非常に重要で、公共交通機関を利用する人の意見に耳を傾けて、使いやすいようにして欲しい
- ・足羽山はもっときれいだった。今は手入れがされていないので、桜やアジサイなど

をもっと植えたり、管理を良くしたら、もっと行きたくなる

- ・足羽山は道が狭く危険なので、スマートカーを実験的に導入したらどうか
- ・駅前活性化を進めるためには、まちなかに住んでもらうことが重要
- ・駅前広場の整備と一緒に、駅からお堀、中央公園へと緑がつながっていくと、自然豊かな福井らしいまちになるのではないか

◆フォーラムで紹介できなかったご意見

- ・歴史を大切にしたいまちづくりを進めて欲しい など 歴史に関するご意見 6件
- ・中心部に市民の森を作ったらどうか など 自然に関するご意見 3件
- ・市民の参画、協働の仕組みが必要 など 市民との協働に関するご意見 12件
- ・ハードに頼らずソフトの工夫が必要 など ソフト対策に関するご意見 7件
- ・その他のご意見等 34件

◆西村座長からの総括

アンケートには多くの意見を書かれていて、福井の人は本当に真面目だと感心した。今日の講演はハードの内容が多かったが、県民会館の跡地を公園にすることからまちづくりを出発させようということを考えると、その計画を進める中でコンペやアイデア募集などを実施し、多くの方の意見を取り入れていくことで、ソフトの取組みも広がっていくだろう。

